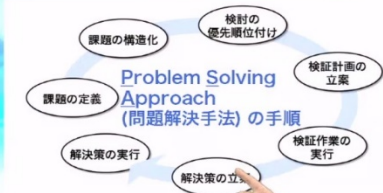


新 問題解決必須スキルコース

問題解決のプロが用いる問題解決の手順 (PSA)



コンセプト

これまで14,000名以上が受講した
BBTの看板コースが完全リニューアル。

普遍的スキルである「問題解決力」を
いまの時代に活用するために、
カリキュラムを一新。

これまで14,000名以上が受講してきたBBTの問題解決カトレーニングプログラム。2001年に開講以来、あらゆるビジネスパーソンに必要な「考える力」を鍛える講座を提供してきました。そしてこの度、時代の変化に合わせてカリキュラム内容を一新し、「新 問題解決必須スキルコース」を2018年4月より開講いたします。ビジネスの現場に必要な普遍的なスキル「問題解決力」の考え方や基礎を体系的に学びながら、より「現場で使える」を目指して、演習問題のテーマやカリキュラム内容を刷新。問題解決のステップごとに用意された演習と添削フィードバックを繰り返すことで、「問題解決力」を着実に習得していきます。また、インターネットが普及しあらゆるデータが取得できるようになった今、「どのようにデータを活用しビジネスの問題を解決していくか」といったデータ分析の内容も新たに追加。シンプルで明快な解説と豊富な演習問題で現場で使える「問題解決力」を体得します。

「わかる」だけでなく「できる」ようになるための3つの特長

①ロジカルシンキングから問題解決のプロセスまでを基礎からわかりやすく具体的に説明

初めて学習する人でも「できる」ようになるために、まず、MECEやフレームワークなどの基礎学習からスタートし、問題解決の7つのステップを体系的に学習します。また、実務で使える実感を掴んでもらうために、5つのリアルケースを通じて、自ら問題を見出し課題を設定し解決していく方法を身につけていきます。5つ目のケースでは、あなた自身の仕事をテーマに取り組むこともできます。

②スキルの定着のために問題解決のステップごとに演習問題を用意。添削対象演習も大幅拡充

スキル定着のために問題解決のステップごとに一つ一つ演習を用意。演習数は全42題、添削対象の演習問題も31題まで拡充しました。また、取り組むケースは、例えば「担当者ごとに重視している点が食い違う」「複数のデータソースが矛盾している」など、実際の現場で起きているようなケース。ただ単にフレームワークに整理する演習ではなく、リアリティあるケースに取り組みます。

③実際にExcelを動かしながらデータ分析を行い、ビジネスの問題を解決していく内容も追加

「昔と違ってネットに情報がたくさん転がっているけど、どんな風に活用したらいいの?」「データはたくさんあるが、要は何なのか、整理されていない」など、時代の変化に合わせて、データ活用の項目を追加しアップグレード。ネットで検索したり、Excelで手を動かしたりしながら、実務への応用方法を学びます。

講師

加藤エルテス聡志 (一般社団法人 日本データサイエンス研究所 代表理事)

東京大学卒業後、マッキンゼーアンドカンパニー、米系メーカー等での経験を経て、2014年に一般社団法人日本データサイエンス研究所(Japan Data Science Consortium)を創設、代表理事に就任。同年算数をAIで学ぶ教材を提供するRISU Japan株式会社を設立。取締役就任。著書に『機械脳の時代』(ダイヤモンド社)、『プログラミングは、ロボットから始めよう』(小学館)、『日本製造業の戦略』(ダイヤモンド社・共著)、編集協力に『日本の未来について話そう』(小学館)、『REIMAGINING JAPAN』(VIZMedia LLC)など。講演にTEDxTokyo Salon "データサイエンスと教育の未来"など。



カリキュラム全体像 (全42題の演習問題のうち最大31題の演習が添削対象！)



※カリキュラムは変更となる場合があります。

※マイケースとは？
 あなた自身の仕事をテーマにアウトプットを提出。難しい場合は、競合他社で同じ役割の人物を想定して提出。
 ※修了条件 15問の合格 (イントロ:2問/MECE・SOWHATピラミッド:3問 /ケース2:5問/ケース5:5問)

ケースの学び方

■各回リアルなケースを用意

ケース1 課題

あなたのミッション

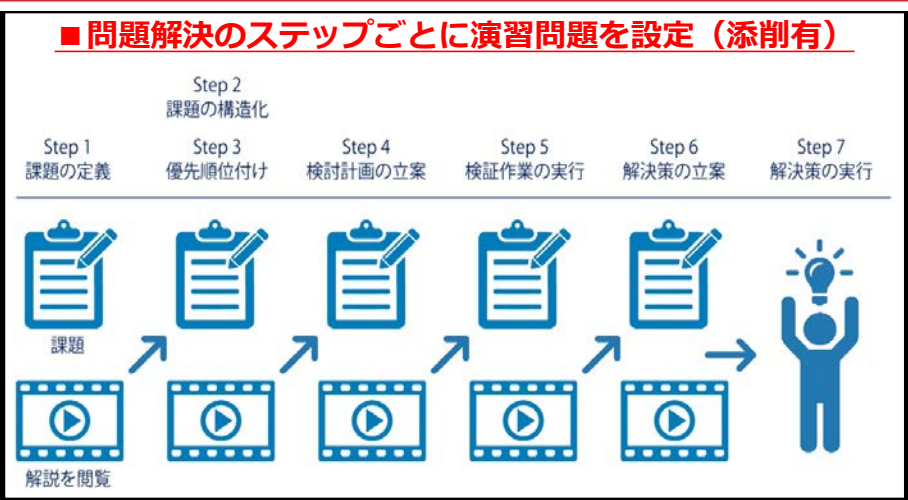
- あなたは世界的巨頭ドローン社の技術部から、マーケティング部に異動になりました。
- 現在ドローンに年間約1,000万円が掛かっているが、50%以上削減するための解決案を提案してほしいと依頼されています。
- 2週間後、解決案を上司に説明し、3週間後から社報を掲載する必要があります。

課題情報

- Step1-6 それぞれの成果物も、標準フォーマットで提出してください。
- 1 課題定義シート
- 2 フォロー ③ 優先順位付け
- 4 検討計画
- 5 検証結果
- 6 解決案の取組概要 (ノート)

注

- ビジネスの現実については、ケース配布資料にあらがた記載されている。
- しかし、ケースを現実のビジネスにあつらえるため、解決策立案に必要な以上の情報は一時的に提供している。
- 解決策立案に必要な情報が何かを特定し、それらを各自調べること



■実務で応用し使いこなすための、各ステップごとのフレームワーク

Step1
課題の定義

Step2
課題の構造化
Step3
優先順位付け

Step4
検討計画の立案

Step5
検証作業の実行

Step6
解決策の立案

- ### ■概要
- 受講期間 : 6か月
 - 講義時間 : 約30時間
 - 演習問題 : 全42題 ※添削対象31題 (必須提出15題、任意提出16題)
 - 開講月 : 毎月1日開講 (予定)
 - 受講スタイル : オンライン講義 + 個別添削
 - 受講料 : **2018年4月開講 特別価格200,000円 (税抜)** [通常 : 250,000円 (税抜)]
 - 副教材 : 大前研一ライブ、CS-BB視聴、大前研一通信PDF版、英語コンテンツ・ライブ!